

# 野澤 勝廣先生を悼む

教育学部工業技術教室主任 糸 山 景 大

野澤勝廣先生が本年9月21日、旅行先的那須塩原温泉で急逝されました。そのあまりの突然な死は悲しみを通り越して、言葉では言い尽くせないほどの驚きでした。その死から50日ほど経った今、折りに触れ先生を思い出すとき、先生の存在の大きさと人格的影響力の深さを感じずにはられません。

先生が長崎大学教育学部産業技術科(現教育学研究科技術教育講座)に赴任されたのは昭和46年4月でした。以来26年の間、先生が教育・研究に果された役割は、そのまま技術教育講座の歩みそのものであります。研究室さえまななかつた当時、劣悪な研究・教育環境の中で、粘り強くしかも温厚な態度で工業技術科をまとめ、常に是々非々の態度を貫かれた先生の姿が、今日の教育学研究科技術教育講座を作ってきた原動力であったと確信しています。机を叩きながら熱い議論を交わした、あの当時が懐かしく感じられます。

教育学部赴任直後から、氷の融解・伝熱現象の研究に着手された先生は、1976年に化学工学会誌「化学工学論文集」に「氷円柱の融解 — 垂直円管内強制対流における形状変化 —」を発表して以来、その研究の情熱を一貫して氷の融解・伝熱現象の解明に向けられ、それが学位論文「空気中における氷円柱の融解に関する実験的研究」に結実し、東北大学から工学博士を授与されています。学位論文の謝辞の最後にかかれた多くの工業技術科の卒業生の名前を見ると、先生の人柄に触れた学生諸君との心温まる交流を見て取ることができます。

学生とのコンパの折り、ウイスキーに氷を浮かせながら、「俺はね、この氷がどんな風に溶けるかを研究してるんだ」と語っていた先生の姿が、今は懐かしく思い出されます。それにつけても、その好きだった酒が先生の寿命を縮めてしまったことを考えると、無念さと共に「吾れ、人生に悔いなし」と書かれたご葬儀の際の言葉に、妙に納得してしまっている自分を感じます。

このような研究を通して培われた先生の識見・経験や暖かい人柄は、教員養成の教育へも遺憾なく発揮されました。野澤先生的人格的教化を示す術を持っていませんが、先生の指導と温かい人柄に触れ、教育界・産業界で活躍している多くの卒業生が、そのことを雄弁に物語っています。

また1985年に、全国的に見ても極めて例の少ない、中学校現場と教育学部工業技術科とによる長崎技術科教育研究会の発足に尽力され、かつ初代会長の重責を果されるなど、長崎県の技術科教育に対しても常に暖かい眼差しを持って、接してこられました。葬儀の際に飾られた先生の遺影は、この研究会の第10回の記念祝賀会の際に写したもので、あの写真の横にいた筆者と握手をしていた時のものだと聞かされた時、共に講座の運営に尽くしてきた者として感慨深いものがありました。

今は先生が築かれた教育学研究科技術教育講座を、仲良く力を合わせて発展させて行くことが、残された者の努めであろうと心に誓うばかりです。

ご冥福を、心からお祈り致します。合掌。